

平成 29 年度第 1 回日高管内学力向上推進会議

【平成 29 年度のテーマ】

- 学校・家庭・地域社会による目指す子ども像の共有
- 学力向上に向けて一体となった取組の指針の策定

平成29年6月23日（金）、日高合同庁舎において「平成29年度第1回日高管内学力向上推進会議」を開催しました。

会議では、はじめに、日高教育局義務教育指導班が、これまでの学力向上に向けた管内の取組の成果と課題、課題解決の方向性について説明を行いました。

引き続き、各委員による協議を行い、目指す子ども像や学力向上に向けた願いについて意見交換を行い、今年度の管内全体で取り組む方向性を明らかにしました。



【説明】 全国学力・学習状況調査における管内の子どもの学力の状況について

【これまでの取組の成果と課題】

- ・言語や計算などの問題において平均正答率が9割を超えるなど、**知識・理解・技能の定着に着実な成果**が見られる。
- ・記述式の問題において正答率が低く、**条件に応じて、自分の判断や考えを表現することに課題**が見られる。

【学力向上に向けた取組の方向性】

- ・授業や学校行事等、生活の様々な場面において、「**活動や課題に目的意識をもつこと**」、「**目的や条件などに応じて、自分の考えをもち、表現すること**」を重視する。
- ・指導資料「日高プラン」で示された「**とらえる**」、「**そろえる**」、「**こころみる**」の過程に基づいて、校内における授業改善に全教職員で取り組む。



【取組の方向性を示す指導資料「日高プラン」】

【協議】 幼保・小・中・高及び家庭、地域社会が一体となった課題解決の方向性

授業改善

- ・説明中心の受け身の授業から、**子どもが主体的に課題解決に取り組む授業**への転換が必要である。
- ・子どもの変容に目を向け、「**子どもにどのような力が身に付いたか**」を見取る評価の**改善**が大切である。

子ども像の共有

- ・幼保・小・中・高の教員や保護者、地域住民が、**地域で育てたい子ども像を共有**することが大切である。
- ・**学校として目指す子ども像を明確にし**、教育活動全体を通じて実現を目指すことが大切である。
- ・目指す子ども像を実現するために、学校と地域が協働し、**一貫した取組を推進**することができる**組織づくり**や**仕組みづくり**が大切である。

連携の促進

- ・**学力向上の成果や課題を確実に引継ぎ**、地域の幼保・小・中・高が一貫した指導を行うことが大切である。
- ・学習内容に加えて、**生活・学習習慣等、生活全体に目を向けて取り組む**ことが望ましい。

【今年度の取組の方向性】

- ・常に子どもを主体として考え、全国調査等を活用し、客観的な視点から、「**一人一人がどのような思考をたどっているか、どこでつまづいているか**」を捉え、**授業改善を図る**。
- ・知識や技能、思考力・判断力・表現力等に加えて、学びに向かう力やコミュニケーション能力などを含め、幼保・小・中・高で「**何ができるようになるか**」という視点で**目指す子ども像を共有する**。
- ・コミュニティ・スクールの導入や「地域学校協働活動」の推進に向けた体制づくりを通して、**次世代の地域を支える地域の子どもの地域で育てる取組**を進める。